平成３０年度　文京区立本郷小学校　**授業改善推進プラン（国語科）**

| | | 低学年 | | 中学年 | | 高学年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 身に付けさせたい力 | １年 | ○大事なことを落とさないようにしながら興味をもって聞いたり、話題に沿って話し合ったりする力<br><br>○事柄の順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く力 | ３年 | ○理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話したり、相手が伝えたいことや自分が聞きたいことも中心を捉えて聞いたり、互いの意見の共通点や相違点に注目して話し合う力 | ５年 | ○話の内容が鋭角になるように話の構成を考えて話したり、相手の目的や意図に応じて自分の考えと比較して聞いたり、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う力 |
| | ２年 | ○自分と友達の意見を比べ、同じところや違うところを見付け、発表したり書いたりする力<br><br>○事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む力<br><br>○句読点や「」などを正しく文章表記する力<br><br>○長音、拗音、促音、撥音等の表記ができ、助詞の「は」、「へ」、及び「を」文の中で正しく使う力 | ４年 | ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし工夫して書く力<br><br>○登場人物の気持ちの変化や性格、情景を叙述を基に捉えたり、中心となる語や文を見付け要約したりし、感じ方には違いがあることに気付きながら読む力<br><br>○句読点を適切に打ち、文章を書いたり、辞書を利用したりして調べる力 | ６年 | ○自分の考えを明確に表現するために、文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりして文章を書く力<br><br>○登場人物の相互関係や心情、描写を基に捉えたり、必要な情報を見付け、文章全体の構成を捉えて要旨を把握したりし、自分の考えをまとめたり広げたりしながら読む力<br><br>○語彙を豊かにし、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使う力 |

| | | 低学年 | | 中学年 | | 高学年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 児童の実態 | 1年 | ○スピーチ活動を積極的に取り入れ「いつ、どこで、なにをした。」という簡単な話をすることができるようになってきた。<br>○教科書の文型を手本として、「いつ、どこで、なにをした。」という程度の簡単な文章を書くことができる。<br>○挿絵と結び付けて想像した場面の様子を友達と交流したり、登場人物になって気持ちを発表したりすることに楽しんで取り組んでいる。<br>○「問い」と「答え」など文の役割について理解できてきている。<br>○音読の家庭学習を毎日継続することにより、音読の力を伸ばしている。<br>○おすすめの７０冊を中心に、意欲的に読書に取り組んでいる。<br>○自分の興味・関心に沿って、本を選択し読むことができる。<br>○視写の速度に個人差が大きい。<br>○ひらがなの学習を終えたが、ひらがなが定着していない児童や、濁音や半濁音、拗音、促音などの使い方が身に付いていない児童もいる。 | 3年 | ○書き出しの工夫、会話文やその様子を入れて書くこと、中心をはっきりさせ、分かりやすくまとめることを意識して書くことができなかったり、語彙力が乏しかったりする児童もいる。<br>○ノートに読み取ったことや自分の考えを書くことはできるが、要点を押さえ、段落相互の関係などに気を付けて、分かりやすくまとめることが苦手である。<br>○考えた内容をグループで話し合い、友達と考えを共有したりまとめたりすることができるようになってきている。<br>○読書活動には、積極的に取り組み、調べ学習のために読書をしたり、参考になる本を集めたりするなど意欲的に取り組んでいる。<br>○相手に応じた話し方や聞き方への意識が低い児童が多く見られる。特に、話の聞き方が良くない児童が多く、話し手を見て聞くことが苦手である。<br>○国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、辞書を身近に置くことで、言葉への関心を高めている。 | 5年 | ○聞き手を意識した話し方ができる児童は少ない。また、相手の話を注意深く聞いたり、自分の意見と比べたり、出た意見をまとめたりすることには課題がある。<br>○「始め」「中」「終わり」の簡単な構成で書くことができる。しかし、情報が整理できずに伝えたいことがはっきりしなかったり、語彙や表現力が乏しかったりする児童もおり、個人差が大きい。<br>○読書活動への取り組む姿勢に個人差が見られる。また、読む本に偏りがみられる。<br>○物語を読むことが好きな児童は多い。登場人物の心情を想像することはできているが、場面のつながりを意識して読むことができている児童は少ない。<br>○説明文では、文章のキーワードを押さえながら内容を捉えることができる。しかし、抽象的な言葉の理解や筆者に対しての意見をもって読むことは個人差がある。 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2年 | ○発言や発表の際の声が小さく、全体に届かないことが多い。<br>○原稿用紙の使い方が身に付いていない児童が多い。<br>○ほとんどの児童が、物語の内容の大体を理解しながら読むことができる。<br>○音読の活動を継続して行うことで、声の強弱や間の取り方を工夫することや、内容を把握して読むことができるようになってきている。<br>○読書タイムや図書の時間に、意欲的に読書をする児童が多い。<br>○「は」と「わ」、「を」と「お」の使い分けが曖昧な児童が見られる。<br>○学習した漢字を適切に作文や文章に書き表すことが難しい児童が多い。<br>○とめ・はね・はらいに気を付け、字形を整えて正しく漢字を書いている児童は少ない。 | 4年 | ○自分の生活を振り返らせる文章を書かせると、いつ、どこで、誰と、何をしたという程度の文章を書くことはできる。一方で、説明的文章を読んで分かったことを自分の言葉でまとめたり、文学的文章を読んで感想を捉えたりする際に、大切な事柄を落としてしまう児童が多かった。<br>○発表自体、苦手意識をもっている児童は多くないが、発言や発表の際の声が小さく、全体に届かないことが多い。<br>興味のある発表では、意欲的に取り組むことができた。<br>○グループによる話し合い活動では、テーマについて全員が自分の考えを言うことが難しい。話し合いの経験や語彙力が少なく、スキルが身に付いていないことが多い。<br>○段落のつながりを考えたり、登場人物の気持ちや様子を考えたりする際、言葉に着目して読むことができる。<br>○調べ学習の際には、図書資料から事実を読み取ることに意欲的に取り組んでいる。<br>○自分の意見や考えを筋道立てて、簡潔にまとめて伝えることが苦手な児童が多い。<br>○読書活動に意欲的に取り組む児童が多い。 | 6年 | ○自分の考えを伝えることはできる。しかし、互いの意見や考えなどを関わらせながら、考えをまとめたり広げたりする力が弱い。<br><br>○自分の考えの根拠を明らかにして書くことができるようになってきた。しかし、情報が整理できず、筋道の通った文章にならなかったり、語彙や表現力が乏しかったりする児童がいたりし、個人差が大きい。<br><br>○優れた描写に着目しながら、読み進めることができる児童が増えてきた。しかし、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる力は、個人差がある。<br><br>○読書活動に意欲的に取り組む児童が多く、読書タイム以外の時間にも本を読む姿が見られる。<br>○図書資料を積極的に活用して調べ活動に取り組む児童が増えてきている。必要な情報を選択して活用する力が弱い。 |

| | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|---|
| 授業改善の具体的な手立て | <１年><br>話す・聞く力を育てる<br>○相手を意識して話す場を設ける。<br>・相手に伝わる話し方のモデルを示す。<br>・朝の会のスピーチ活動を年間を通じて継続し、話す力、聞く力、質問の力を伸ばす。<br>書く力を育てる<br>・実物投影機でモデルを示し、書き方を知らせていく。<br>読む力を育てる<br>○ＩＣＴ機器の有効活用<br>挿絵や写真、動画や音声を有効活用しながら、大よその内容を読み取れるようにしていく。<br>○ワークシートの工夫<br>・児童が書き込みやすいようにマス目の記入欄にし、教科書と同じ写真や挿し絵を活用した分かりやすいワークシートを活用する。<br>○発問の工夫<br>・児童の興味を活かした発問をする。<br>・発問を工夫し、書かれていることから、場面や情景を豊かに想像できるようにする。<br>○読書活動の充実<br>・読書の楽しさを味わえるよう、読書タイムの読み聞かせ、図書の時間の活動の工夫を継続する。<br>・「本郷小の１５０冊」読書活動を推進し、読書への関心を高めていく。<br>言葉についての知識・理解を育てる<br>・濁音や半濁音、拗音、促音、などに気をつけながら視写させる。<br>・既習文字や漢字を使って言葉集めをし、語彙や知識を増やしていく。 | ＜３年＞<br>話す・聞く力を育てる<br>○対話、話し合いの工夫<br>・聞く・話すことを日常的に意識できるようにする。例えば、スピーチを聞いた後に意見を述べ合う機会を多くもつ。<br>・司会台本を活用し、話し合いの方法を知らせる。<br>書く力を育てる<br>・毎週１回、１００ます作文として、会話文書き出しや自分の気持ちを書かせる指導を行う。作文には、コメントを付け、表現力を養う。書くことへの抵抗感をなくす。<br>読む力を育てる<br>○ＩＣＴ機器の有効活用<br>挿絵や写真をICT機器で拡大表示し、内容を読み取れるようにする。<br>○ワークシートの工夫<br>・めあてや考え、まとめを内容に盛り込むことで他教科のまとめ方にもつながる形式にする。<br>・これらの形式をノート指導へ移行していく。<br>○発問の工夫<br>・確かな理解を促すため何を考えたらよいのかを明確にした発問をする。<br>・書かれていることから、場面や情景を豊かに想像できるようにするため発問と教材の提示を有効的に組み合わせる。<br>○対話、話し合いの工夫<br>・意見をまとめたり深めたりするために、対話やグループによる司会を立てた話し合いを設定する。<br>○読書活動の充実<br>・読書タイムでは、じっくりと読書できる静かな雰囲気をつくり、読書の楽しさを味わわせる。<br>・「本郷小の１５０冊」読書活動を推進し、読書に対する関心を高める。<br>・紹介したい本の説明をしたり情報収集のために読書したりする活動を設定する。<br>言葉についての知識・理解を育てる<br>○辞書の活用<br>・辞書を身近に置き、すぐに調べられるようにする。自分用の辞書を購入させ、付箋を貼りながら、言葉に興味をもたせ、語彙を増やす。 | ＜５年＞<br>話す・聞く力を育てる<br>・取材や資料集めを行い、根拠をはっきりさせて話すことができるようにする。<br>・クラス全体やグループなど話し合う場を工夫し、話したり聞いたりする力を育てる。<br>書く力を育てる<br>・簡単な構成メモを書くようにし、書きたいことを整理させるようにする。<br>・書く題材に合わせて、使えそうな語彙の提示することで語彙を増やし、表現力を培う。<br>・自分の考えをノートに書く習慣を身に付けさせるために、書く時間の確保を図る。<br>読む力を育てる<br>○話し合いの工夫<br>・自力解決の時間を保証する。<br>・意見をまとめたり深めたりするために、グループや全体での話し合う時間を設ける。<br>○読書活動の充実<br>・伝記や意見文、解説文や新聞など、さまざまなジャンルの本を読む場を設定する。<br>・並行読書を取り入れ、読書の幅を広げる。<br>○言語活動の工夫<br>・教材の特性に合わせ、多様な言語活動を設定する。<br>言葉についての知識・理解を育てる<br>○辞書の活用<br>・辞書を身近に置き、すぐに調べられるようにする。 |

| | <２年> | ＜４年＞ | ＜６年＞ |
|---|---|---|---|
| 授業改善の具体的な手立て | 話す・聞く力を育てる<br>○対話、話し合いの工夫<br>・短く話す機会を意図的に設定し、継続的に取り組むことで話すことへの抵抗感を減らしていく。<br>・相手の話を聞いた後に質問をする活動や相手が話した内容をもう一度説明する活動などをすることで、ゲーム性をもたせ、楽しみながら相手の話を聞くことができるようにする。<br>書く力を育てる<br>・出来事を順序よく書いたり、簡単な構成を考えて書いたりすることができるように、接続語に着目させたり、モデルを示したりすることで「書く」ことへの負担を減らしていく。<br>読む力を育てる<br>○基本内容の読み取りの定着<br>・物語文においては、時・場所・登場人物・主人公の気持ちの変化を、説明文においては、「はじめ・中・終わり」に分ける活動を各単元で確実に行い、内容を読み取ることができるようにしていく。<br>・繰り返し使われる言葉や表現に注目させ、文章のキーワードを書き抜けるようにしていく。<br>○発問の工夫<br>・児童の予想や意見のずれが生まれる発問を行っていくことで、児童が主体的に文章を読むことができるようにしていく。<br>○読書活動の充実<br>・読書タイムや週１回の図書の時間読み聞かせを活用し、読書の楽しさを味わわせる。<br>言葉についての知識・理解を育てる<br>・正しい文字を書くことができるように、漢字のノートや漢字テストを丁寧に添削する。特にとめ・はね・はらいと画の長さについては、見本を示すなどして丁寧に指導する。<br>・言葉集めや、既習の漢字を使った作文を書く機会を意図的に設定していく。<br>・促音、句読点、「　」や段落などに気を付けながら視写させる。 | 話す・聞く力を育てる<br>○対話、話し合いの工夫<br>・初めは司会台本を活用し、グループとしての意見の深め方についても知らせていく。<br>・適宜話す機会を設け、筋道を立てた話し方に継続的に取り組み、話すことへの抵抗感をなくす。<br>・メモの取り方を示し、正しく聞き取らせるようにする。<br>書く力を育てる<br>・行事後や単元の学習の中で、作文を書く機会をつくり、書き方のモデルを示したり、皆でよりよい書き方を考えたりしていく。<br>読む力を育てる<br>○ノート指導の工夫<br>・ノートの使い方を知らせ、板書のみではなく、考えや感想を書かせる。<br>・ノートをこまめにチェックし、コメントを入れる。<br>○対話、話し合いの工夫<br>・意見をまとめたり深めたりするために対話やグループによる話し合いを設定する。<br>○読書活動の充実<br>・読書タイムでは、じっくりと読書できる雰囲気をつくり、読書の楽しさを味わわせる。<br>・司書と連携し、調べ学習のために図書室を活用して必要な本を選び、情報収集のために読書をする時間を設ける。<br>言葉についての知識・理解を育てる<br>○辞書の活用<br>・国語辞典、漢字辞典を準備しておき、分からない言葉や漢字は、すぐに調べるように声をかける。 | 話す・聞く力を育てる<br>・クラス全体やグループなど話し合う場を工夫したり、意図的に場を多く設定したりすることで、友達の考えと自分の考えを比較し、共感したり、補足や反論をしたりできるようにする。<br>書く力を育てる<br>・簡単な構成メモを書くようにし、書きたいことを整理させるようにする。<br>・書く時に使える語句や表現を示し、自分の考えを豊かに表現できるようにする。<br>・俳句指導を通して、豊かな表現力を身に付けさせる。<br>読む力を育てる<br>○読書活動の充実<br>・伝記や意見文、解説文や新聞など、さまざまなジャンルの本を読む場を設定する。<br>・並行読書を取り入れ、読書の幅を広げる。<br>○言語活動の工夫<br>・教材の特性に合わせ、多様な言語活動を設定する。<br>○発問の工夫<br>・学習のめあてに迫るために、考える内容が明確な発問にする。<br>○話し合いの工夫<br>・自力解決の時間を保証する。<br>・意見をまとめたり深めたりするために、グループや全体での話し合いを設定する。<br>言葉についての知識・理解を育てる<br>○辞書の活用<br>・辞書を身近に置き、すぐに調べられるようにする。<br>○図書資料の活用<br>・調べ学習の際に、３階図書室を利用することを推奨する。 |